Name: toyo（トヨ） ／ toyo

Profile: 群馬県高崎市在住。写真スタジオに勤め、主にヘアメイク、着付けを担当している。マタニティフォト「stroking hand」を立ち上げる。

person 05

1. それぞれの思い出を素敵な形で残せるように仕上げていく一枚。
2.3. これまで撮影に携わった作品。神秘的な一枚と家族の幸せな瞬間を切り取った一枚。

Point ①

自ら経験した違和感

美容業界にはずっと携わってきたので、撮られる側の気持ちも少しはわかっているつもりでした。

しかし、自分が妊婦になりマタニティフォトを撮ったとき、自分の格好や男性スタッフの目線がすごく気になり、違和感を感じました。

Point ②

仲間からの一言

過去にカメラを学ぼうとチャレンジしたこともありましたが、難しく、苦手意識を持ちずっと遠ざけてきました。

仲間から「本当は撮りたいのでは？」という声を聞き、やっぱりそうかもしれないと納得感を強く感じました。

Point ③

振り返れば一瞬の10ヶ月

マタニティフォトを撮るのは撮影時の格好含めハードルを感じる人も少なくないと思います。

だけれど、振り返ってみるとすごく神秘的で一瞬で過ぎてしまう貴重な10ヶ月。

少しでも抵抗感を無くし、気楽に撮れる状況をつくりたいです。

神秘的な「今」を切り取る。

現在は、フォトスタジオでヘアメイクや着付けを主に担当しています。この職種には16歳で東京に出てきた時から様々でな形で携わっており、沢山のお客様と関わってきました。七五三やマタニティフォトなど様々な記念の撮影に関わっていましたが、自分が妊娠しマタニティフォトを撮った時に、お腹を出し、男性のスタッフに見られ、緊張する中での撮影に違和感を感じました。

このような経験から撮影の間もっと気を楽にして取れる環境をつくりたいと思い、ヘアメイク・着付けつきのスタジオを持ちたいと考えていました。私自身は写真に苦手意識があるので、写真は希望があればカメラマンをつけることを考えていました。

しかし、仲間に話してみた時、私のこだわりは一画角にどうおさめるかだ！と話したら、「写真を撮るのが好きなのでは？」と言われ、苦手だと遠ざけてきたけれど、やっぱりこれなのかもしれないと思いました。

自分が写真を撮ることに不安を感じつつも、ワクワクしています。

これから私の挑戦がはじまります。